

教団新報

定価 1部144円(本体133円+共206円)
 予約購読料 1年分 千共 5,150円
 紙代のみ 3,600円
 振替 00140-9-145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 URL http://uccj.org

発行人 長崎 哲夫
 編集主筆 渡邊 義彦
 印刷所 株式会社きかんし

第39総会期 第8回(臨時)

常議員会



梅崎九州教区議長による報告・提案

熊本・大分地震支援募金、1億8千万円を決定

第8回臨時常議員会が8月30日に行われ、主な協議事項として「熊本・大分地震」に関する件を扱った。冒頭、梅崎浩二九州教区議長は、教区常置委員会からの提案を説明した。

教団「熊本地震救援対策委員会」において、社会委員会の支援募金を引き継ぎ、献金運動を推進し、「建物復旧」に特化した取り組みを行うこと、目標額、1億8千万円、期間、2年間、用途、被災15教会(錦ヶ丘、熊本草葉町、武蔵ヶ丘、熊本城東、八代、隈府、別府、別府野口、別府不老町、由布院、玖珠、竹田、諫早各教会、合志豊岡伝道所、在日大韓基督教会熊本教会)のため、提案理由において、梅

崎議長は、ウォーリス建築事務所に依頼して行った被災区分判定に基づき、被災教会個々の必要費用の算定について説明した。

質疑応答の中で、主に、東日本大震災で、再建計画の半分を支援、残りは融資との原則を定めたこととの整合性が論じられた。地域毎に違いが出ることに疑問を付し、教団としての支援の基本的な考え方を統一して行くべきとの意見がある一方、被災状況は、災害によっ

て異なり、経費も見通しにすぎないとして、提案された計画で出発するべきとの意見があった。

また、梅崎議長は個々の質問に丁寧に応じた。

15教会以外の被災については、「問安したところ被害は無い」と述べた。融資については、「教区にある既存の制度を優先的に適用して行くことしか考えられない」と述べた。

在日大韓教会との協力については、「教団の教会と同じように支援したい」というのが願いと述べた。

一時、休憩を取り、教団三役、九州教区議長、副議長と相談の上、石橋秀雄議長が修正案を提案した。常議員会の下に「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会」を設置し、「熊本地震救援対策委員会」の活動、社会委員会の募金を引き継ぎ、九州教区救援対策本部との協議のもとに、献金運動を推進すること、委員は議長が推薦する常議員5名、期間、39日、40総会期、募金名称「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」とすることなどを新たに提案した。

また修正案では、在日大韓基督教会熊本教会を「組織が違うので先方と協議をしながら進める」との理由で外し、募金用途が「被災14教会」となっていた。この点について疑義が述べられ、被災14教会ならびに教団と宣教協約関係にある教会の建物復旧のため」とする再修正案が出された。石橋議長は、再修正案の採決を諮り、賛成多数で可決した。委員は高橋潤、岡村恒、朝岡瑞子、望月克人、稲松義人各常議員が推薦された。

その他「教団関係学校承認申請」に関する件では、学校法人夙川学院からの申請を承認した。当該学校の寄付行為では、院長、理事の三分の一がキリスト者でなければならぬとしているが、教団の教規施行細則第7条に、代表者、実務上の責任者、理事会の半数以上が「教団の教師または信徒」とあることとの関係が議論された。石橋議長は、「教団の教規施行細則第7条を重んじてきたきた」という文書を付した上で」と述べて採決を諮り、承認した。

（嶋田恵信報）

ユースミッション2016 歴史を越えたよい友達に出会えた

日本基督教団(UCCJ)と台湾基督教長老教会(PCT)の青年交流プログラム、ユースミッションが開催された。原則2年毎に開催地を両国で交互とし、日本での開催は4回目となる。今回は、途中、台風による足止めなどもあったが、台湾、日本各7名の参加者たちは8日間わたる東北、軽井沢の旅を共にし信仰における交流を深めた。台日双方の参加者に感想を記してもらった。

参加者の感想
 蔣 記剛 (PCT青年・台湾神学院2年生)

8月13日から20日にかけて、教団教育委員会主催、世界宣教部共催のUCCJとPCTのユースミッションが行われました。今年も台湾青年が日本を訪れ、共に東北教区被災者支援センター・エマオで開会礼拝を持ち、ホームステイを2泊した後、東北教区中高生キャンプ(猪苗代)と軽井沢での全国教会青年同盟修養会に参加しました。今回のテーマは「共に主イエスをシェアしよう!」でした。

仙台では荒浜と閑上を訪問し、被災地の現況を見ました。一日も早く被災地が復興するよう祈りました。

仙台訪問の後、福島猪苗代に行き、東北教区中高生キャンプに参加しました。キャンプ中、会津放射能情報センター代表・片岡輝美さん(若松栄町教会)から原発事故に関する講演を聞きましました。親として、自分の子供たちは自分で守ると述べておりました。講演後、台湾青年も台湾原発の問題について分ち合いました。その後、猪苗代クリスチャン史跡を巡り、400年前の日本キリスト教の歴史を学びました。

17日に台風に見舞われましたが、無事に軽井沢に辿り着き、全国教会青年同盟修養会に参加しました。修養会の2日目は、教団のナグネ宣教師が韓国での自身の働きを話してくれました。そして、夜の礼拝では台湾青年の張雅鈞姉が、自らの信仰はアメリカの宣教師によって、イエス様に変えられたものであることを証しました。

ユースミッション最終日の19日に、東京へ戻り、長崎哲夫総幹事に会い、自身が青年の頃に参加した修養会の経験を通して、

内田 歩 (大宮前教会)

今回のユースミッションを通して、私は神様からたくさん恵みを受けた。教会や国境を越えたいと思えました。

またこのキャンプで他のメンバーと出会い、深い交わりを持てたことは本当に嬉しく感謝なことでした。テポーションや自由時間には、教会や神様のこと、勉強・家族のこと、政治や世界のことまでいろいろなことにつ

いてシェアし祈り合うことができました。教会や国籍は違っても、神様の家族であるということを感じて、今も強く感じます。プログラムの最後には、それぞれの場所に戻ったあとクリスチャンの青年としてどう行動していくかということ、自分の信仰・教会・社会(世界)の3つの視点から考えてシェアする、アクションプランのグループ発表を行いました。このキャンプで学んだことを自分の内に留めるだけでなく、周りに神様の喜びをシェアしていくという思いを新たにしました。これからも神様がそれぞれの場所で働いてくださり、一人一人が神様の器として用いられていくと確信しています。

最後に、このキャンプのために準備し支えてくださった方々、そして守ってくださった神様に心から感謝したいです。

が初めてだったため、猪苗代での原発に関するレクチャーは特に印象深いものでした。自分の知らない情報が恐ろしくなりました。今まで知らなかった自分うとしていなくなった自分にも気づかされました。

原発に関する情報を耳にする機会は徐々に減っていく、東京で暮らしているうちに頭の片隅へと追いやられていたのです。改めて原発の恐ろしさ、それを忘れてしまうことへの恐ろしさを痛感しました。この課題を通して神様が何を語ろうとしているのかを考え、祈り続けているかなくてはならないと思えました。

▼教区青年担当者会・教育委員会

青年伝道に本気で取り組むか、問いかけ

《教区青年担当者会》

9月5日～6日に東梅田教会で教団教育委員会主催の教区青年担当者会が行われた。全国の教区(東京教区は支区)から青年担当の代表者が集まり、青年伝道について話し合った。

開会礼拝、自己紹介、オリエンテーションに続いて、ユースミッションの報告を、写真を見ながら受けた。

今回の講師はK G K (キリスト者学生会) 総主事の大嶋重徳氏。「若者と生きる教会」というテーマで講演してもらった。大嶋氏の青年伝道にかける情熱がヒシヒシと伝わってきた。牧師はほんとうに若者に届く言葉語っているか。日曜日



具志堅篤教育委員長(左)、大嶋氏(右)

の礼拝説教のフィードバックをしているか。どういう風にメッセージを受けとめたか、どこがわかからないか、若者たちに聞く。それを次の説教に生かす。そうやって御言葉の共同体をつくっていく。青年伝道にはお金がかかる。お金をかける覚悟があるか。そして本気で青年伝道に取り組む人があるか。その教団が本気で青年伝道に取り組むなら、組織の中に青年担当部門をつくる。青年が2～3回教会に来たら、食事に誘い、ゆっくり話をする時間をつくる。青年伝道のために教会が変わる準備があるかなど、心に突き刺さるメッセージがいっぱいあった。夕食後、各教区(支区)の青年活動について資料

に基づきポイントだけ、一人5分で報告し、情報交換や質疑をした。

2日目は4つの分団に分かれて、講演や教区報告を受けたことを踏まえて、青年伝道について少人数で話し合った。話が尽きないほど盛り上がり、その後の全体会では、

▼信仰職制委員会

教団総会議員、教会役員であることを確認

8月25日～26日、第6回信仰職制委員会を、教団会議室で開催した。出席者は藤盛勇紀委員長、小池磨理子、須田拓、中村公一、田村博、武田真治の各委員、書記の宮地健一委員、道家紀一幹事である。

藤盛委員長のメッセージと祈りで委員会は始まった。

2つの諮問の答申を行った。最初の諮問は、7月19日付で中部教区常置委員会からであった。教区総会推薦正議員の教団総会議員の被選挙資格について諮問いたします。

第66回中部教区総会において、慣例によって当該教会の役員に今期選出されなかった2名をそれぞれ常置委員、教育部婦人委員長として、推薦正議員に選出いたしました。

各分団の報告がなされた後、再度、みんなで青年伝道について語り合った。

(有澤慎一報)

《教育委員会》

9月6日～7日に東梅田教会で第6回教団教育委員会を行った。出席者

この場合、正議員という観点から考えれば、教団総会議員の選挙権も被選挙権も保証されるものと考えられます。しかし、教規第1条(2)の観点に立って、『各教区総会においてその教区総会議員である教会役員のうちから選挙される者』とあり、上述の2名は当該教会の役員でないために、教団総会議員の被選挙権は有しないと解釈せざるを得ません。どのように判断したら良いでしょうか。これに対して次のように答申した。『教規第1条(2)により、教区総会推薦正議員であっても教会役員でない場合、教団総会議員の被選挙権は有しません。』

2つ目の諮問は、8月25日付で、長崎哲夫総幹事からもので、「教区選出は委員6名と事務局2名。7月25日に行われた教育プログラム小委員会の報告を受けた。『教師の友』の2017年度～2019年度のプログラム・テーマ一覧をつくり、2017年度の聖書コメントを考えた。教師の友編集委員会報告と全国教会幼稚園連絡会報告を受けた。8月13日～20日に行われたユースミッション2016の報告を受け

た。台湾基督長老教会から7名の選抜された青年が日本に来た。今後は青年主体で動いて行けるようにしたい。教団宣教委員会報告、常議員会報告を受けた。教会幼稚園融資を募集したが(8月31日締め切り)今回は申し込みがなかった。クリスマス献金と「みんな生きよう」誌24号について話し合った。献金目標額は1000万円とする。献金送付先の一

つを熊本YMCAのごとくも向けプログラム、トラウマケアキャンプとする。「みんな生きよう」誌のクイズの景品としてクリアファイル400枚をつくる。クリアファイル、バッチ、表彰状のデザインについて確認した。キリスト教育主事認定試験は2017年3月3日に大阪クリスチャンセンターで行う。4人の教団教育委員が担当する。

(有澤慎一報)

ここで『但し』以下の『教会役員』の理解について曖昧な点がありますので、明確にしてください。『教会役員』の理解について、次のようにお願いいたします。これに対して、次のように答申した。『答申18(中略)』以下、本委員会は『但し』以下の文言を不適当と考え、これを削除します。』

『教会総会において現任陪餐会員たる信徒の中から選挙』された者を意味します。従って、宗教法の法の責任役員であつても、教会役員ではない者は教区選出教団総会議員の資格を有しません。また、『教会役員』の定数に含まれない特別な教会役員は憲法に規定されていません。以上ことから、本委員会は『但し』以下の文言を不適当と考え、これを削除します。』

次に、各教会に送る礼拝式文に関するアンケート結果の各自担当したものを全員で読み合わせ、報告書を作成した。続いて、次期総会期の信仰職制委員会への申し送り事項については、新しい式文を考えるにあたって、礼拝指針作成をすることや教規の改正項目などが挙げられたが、基本的には、委員長に一任した。(宮地健一報)

9月5日～6日に行われた第6回青年担当者会の反省をした。教団教育委員会フェイスブック運営について話し合った。第7回青年担当者会は2017年9月に東京で行う。講師はもう一度、大嶋重徳氏(K G K総主事)をお願いする。宗教改革500周年記念中高生大会の準備状況の報告を受けた。(有澤慎一報)

教師検定試験公告

2017年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

- 一、受験要綱の申し込み
 - 受験要綱と教団指定の願書用紙は1600円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条(2)」によるものに限ります。
- 二、受験願書の提出
 - 受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。
- ①教区締切 2016年11月14日(月)
 - (教区による締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください)
- ②教団締切 2016年12月12日(月)
 - (各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)

- *受験料は正教師1万3千円、補教師1万円
- 三、補教師について
 - ①「説教」「釈義」の課題テキスト
 - 旧約 ネヘミヤ記8章7～12節
 - 新約 マタイによる福音書25章1～13節
 - ②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱をご確認ください。
- ③補教師(CⅢコース)の牧会学の課題
 - 『牧会とは何か』について論述してください。
- ④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

- 四、正教師について
 - 受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。
- 五、提出物(説教、釈義、牧会学等)締切について
 - 当委員会への提出締切日は、2016年12月14日(水)必着です。
- 六、学科試験と面接試験について
 - 学科試験は2017年2月21日(火)、面接試験は2月22日(水)、2月23日(木)に東京・日本キリスト教会館にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。2016年10月1日

日本基督教団教師検定委員会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
電話 (03) 3202-0546

公告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥に基づき、同規則第3条6号対象者(所謂Cコース受験者)に対する認定面接を左記のように実施します。

2017年秋季試験以降に新たにCコース受験を志願される方は、本委員会の指定した書類を2017年1月13日(金)までにご提出いただき、左記日程の面接にご出席ください。なお、面接要領・提出書類用紙については、百円切手を同封の上、本委員会事務局に直接お申込みください。

★認定面接
日時 2017年2月23日(木)15時～(予定)
場所 日本キリスト教会館4階会議室
なお、認定面接予定者には、書類受付後、通知を送付します。
2016年10月1日
日本基督教団教師検定委員会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
(電話 03-3202-0546)

▼救援対策本部会議

尚、半年の活動と終結後の対応を協議

9月2日、救援対策本部第15回(通算第49回)会議を教団会議室にて開催した。まず、7月31日現在、国内募金が10億2668万4500円、海外からの献金が4億487万6231円となっていることが報告された。

次に、救援対策室・担当幹事より、台湾基督長老教会(PCT)からの献金受領、会堂・牧師館等貸付金返済状況(未完了は16教会・2幼稚園。返済残額総計2億8200万3031円)、被災教会支援(放射能問題支援「エマオ」・「いずみ」)

被災教会報告として、奥羽教区からは、江刺教会礼拝堂建築工事進捗状況報告と東日本震災被災区内被災教会支援会計報告がなされた。東北教区からは、教団への東北教区被災者支援センター「エマオ」放射能問題支援活動支援依頼、郡山細沼

対策室「いずみ」活動支援依頼、2017年4月以降の活動についての検討等の報告がなされた。

また、「第27回こひつじキャンプin山中湖」開催計画、PCTと救援対策本部共催のリトリート開催準備について審議したほか、教団救援対策活動終結後の教団としての対応(貸付金返済確認、本部会計結算、2017年4月以降の諸活動把握ほか)について協議し、これを継続審議とした。

(雲然俊美報)

◆統一原理問題全国連絡会

被害者・家族支援のため十分な情報交換を

教団統一原理問題全国連絡会(代表世話人・米倉美佐男宣教委員長)は、9月1日、ホテル椿館(松山・道後)を会場に日韓教会連合統一協会問題対策セミナーを開催した。教団外では大韓イエス教

長老会(PCK)より1名、日本バプティスト連盟、カトリック中央協議会、在日大韓基督教会、カトリック高松教区より参加があった。全51名。

米倉委員長およびチェ・ソングンPCK異端似以非委員長による開会挨拶の後、卓志雄氏(日本聖公会司祭、日本聖公会宣教主査)が「日本と韓国におけるカルト対処の方法論を考える」と題し講演した。講師は、多くの「キリスト教系」カルト団体が韓国発祥であることを挙げ、韓国教会が健全でないことの裏書と

評し、これら問題への対応に責任を持つべきだと主張した。また、韓国教会が取ってきた方策として該団体を神学的に異端と断罪し一線を画してきたのに対し、日本側は被害者の家族に関わることから問題の解決へと向かう方策であったことを紹介、韓日双方が情報を交換する必要性を説いた。

第2講演は、卓志一氏(釜山長神大教授、月刊現代宗教学理事兼編集長)が「最近における韓国の異端の動向と方法的アプローチ」を述べた。

第3講演は、根田祥一氏(クリスチャン新聞編集顧問)が「クリスチャントゥデイ(CIT)の真相」と題し、東京地裁判決(2013・11・13)ほか典拠を示してCITの問題点を指摘した。

2日は会場を松山城東教会に移し、各教区からの報告を受けた。また、3人のパネラーから事例の紹介を受け共有した。



左・米倉委員長、右・チェ委員長

消息

作田和夫氏(隠退教師)



16年5月28日逝去、84歳。北海道生まれ。63年日本聖書神学校卒業。同年より郡中教会を牧会し12年に隠退。遺族は妻・作田英子さん。

石川守正氏(隠退教師)



16年8月30日逝去、87歳。東京都生まれ。57年

事務局報

東京聖書学校卒業。同年より下総旭町、小見川、山梨八代、石和教会を経て05年隠退。遺族は息・石川健治さん。	浦河	就(主)五味一	五味一
	桂	辞(兼主)寺田惠英	教師退任
	福光	就(主)池谷明高	大平有紀
	中条	就(主)寺田惠英	信徒伝道者異動
	諸川	就(代)小堀康彦	三木 辞 稲葉義也
	関東教区(辞)石川榮一	就(代)富井鉄兵	教会解散
	佐野	就(主)石川榮一	南久が原
	元浦河	辞(主)寺田惠英	教会所在地名変更
			南町田 194-0000
			5 町田市南町田1-1-10
			1-10

教団と台湾基督長老教会との教会協議会

台湾基督長老教会(以下PCT)と日本基督教団(以下教団)の教会協議会が8月22日から25日まで台湾で行われた。今回は15回を数える協議会が2年に一度、台湾と日本で交互に開催されており、今回は台湾側の関子鎮で「共にキリストに倣い、へりくだって神に仕えるしもべとなる」(ミカ書6章8節、コリントの信徒への手紙一11章1節)をテーマに開催された。教団からの参加者22名を含めて合計49名で、開会・閉会礼拝、2回の朝の祈り、6回のセッションを持ち、共同声明が発表された。

両教会・教団の三役、総幹事、担当幹事、だけでなく、教区から送り出された出席者、それぞれの派遣宣教師に加えて、青年たちが生き生きと役割を担って主体的に参加している姿に希望を見出す思いがした。「教会の現状と課題」、「教会青年の未来」、「宣教活動の振り返り・災害救援と復興」、「宣教活動の振り返り・原住民族」、「国際組織への参加の課題」、「PCTと教団宣教協約の振り返りと展望」がセッションのテーマで、両教会から発題があり、討論がなされた。PCTと教団がこれまで築いてきた信頼関係に基づいて、これから具体的な問題に協力してどう対処して行くのか、という課題に教団が誠実に向き合うことが求められていることを感じた話し合いであった。共同声明の協議に、予定の1時間を大きく超えて、三時間近く費やされたことから伺えるだろう。合同教団が教派教会と共に歩む難しさと豊かさを覚える。

今回の会場は、日本の植民地時代に開設された日本式の温泉地であった。フィールドトリップは、日本統治時代に作られ、台湾南部の農業に大きく貢献した八田與一ダムの見学であった。台湾が日本の植民地であった事実を理解した上で、現在、これからのPCTと教団の歩みを協議会のテーマに立ち返って歩むことが求められているのではないだろうか。

(村山盛芳報)



八田與一ダム記念碑の前で

第56回「キリスト教教育主事」認定試験公告

第56回(2017年)「キリスト教教育主事」認定試験を次のとおり行います。

◆受験願書提出期限 2016年12月12日(月)

(提出物1〜7を教区に提出)

◆論文提出期限 2017年1月27日(金)

(試験科目ハの論文・教団教育委員会提出)

◆試験期日 2017年3月3日(金)

午前11時〜午後2時

◆試験場所

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-26-47

TEL06-6761-1856

大阪クリスチャンセンター会議室

◆試験科目

Ⅰ.筆記試験 日本基督教団教憲、教規および諸規則(60分)

*試験時間に日本基督教団「教憲教規および諸規則」を貸し出します

Ⅱ.口面接

ハ.論文 400字詰原稿用紙15〜20枚

「日本におけるキリスト教教育の歴史と展望」

◆提出物

◎以下の書類を整え必ず期限までに教区事務所へ提出する。

1. 受験願書・所属教会主任教師の推薦書: 1通

2. 履歴書・信仰歴: 1通

3. 教区の推薦書: 1通

(以上は教育委員会所定のもの)

4. 出身学校校長の推薦書: 1通

5. 出身学校成績証明書: 1通

6. 「私はなぜキリスト教教育主事をめざすのか、召命との関連で」記述書 400字詰原稿用紙2枚程度

7. 受験料 5,000円

教育委員会所定の用紙は、〒169-0005

東京都新宿区西早稲田2-13-18-31 日本基督教団教育委員会に、住所、氏名を記した返信用封筒に130円切手を添えて請求してください。

◆問い合わせ

日本基督教団教育委員会 〒169-0005

東京都新宿区西早稲田2-13-18-31

TEL03-3202-0544

FAX03-3207-3918

2016年10月

日本基督教団教育委員会 委員長 具志堅篤

